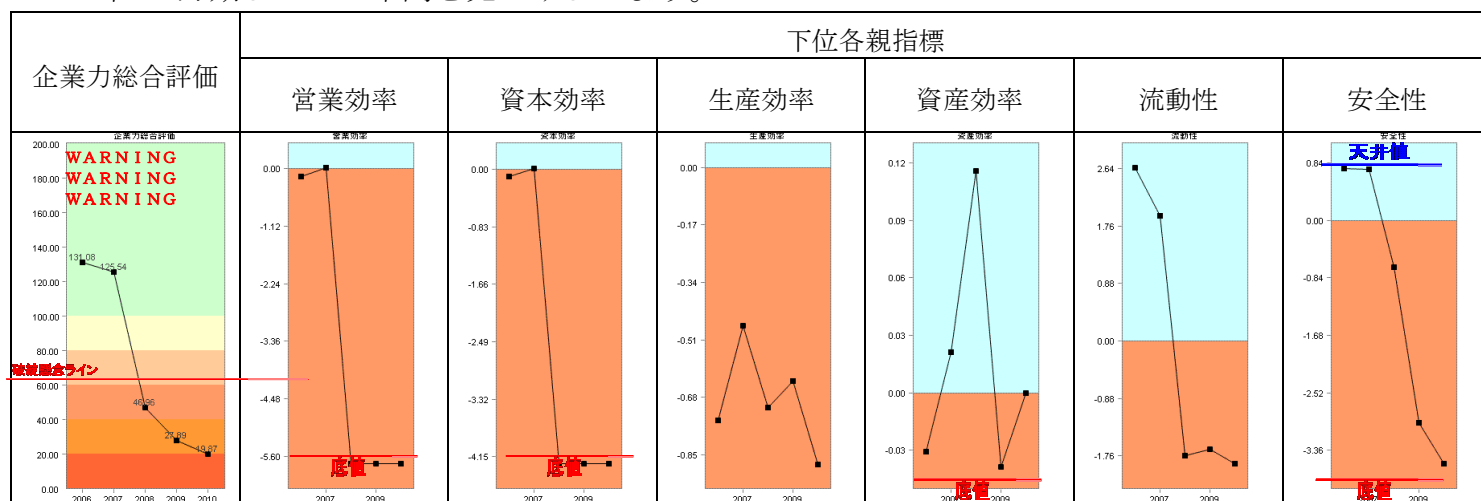


今回は、3 月 12 日に負債総額 52 億円で民事再生法の適用を申請した株式会社 C & I Holdings (以下 ㈱C & I H) です。1986 年に中小企業向け情報サービスを手掛ける「ベンチャーリンク」として設立の同社は、フランチャイズビジネス支援や中小企業向けコンサルティングサービスへ事業を拡大し、2001 年には東証 1 部へ上場を果たすなど、ベンチャービジネスの盛り上がりと共に業績を伸ばさせていました。

しかし、景気低迷による顧客の業績悪化や撤退などで一転して厳しい環境に陥ったことから、2009 年には「日本振興銀行」と業務資本提携し同グループ支援の下で再建を目指したものの、2010 年には日本振興銀行が民事再生法の適用を申請したことで資金の後ろ盾を失い、また、2011 年には東証より上場廃止の決定を受けたことから、やむなく自力での再建を断念し今回の措置に至ったようです。

2010 年 12 月期までの 5 年間を見てみましょう。



企業力総合評価は、131.08→125.54→46.96→27.89→19.87 と推移しています。

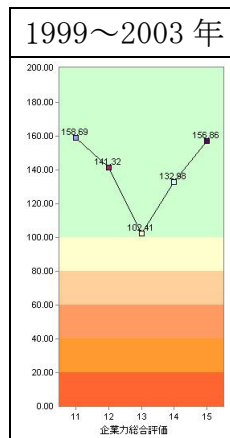
WARNING も 3 つついています。沢山企業を分析しますが、これほど急落し、低いポイントをつける会社は滅多にありません。右グラフは同社の 1999～2003 年までの企業力です。急こう配は過去にも同様に存在しています。しかし、今回は残念ながら、V 字回復することはありませんでした。

営業効率 (儲かるか)、資本効率 (資本の利用度) は 2008 年から 3 年間底値です。この指標の底値は、「もう商売止めて下さい」と同じことです。そのアラームは、2008 年 12 月期の決算書にすでに表れているということです。

生産効率 (人の利用度) も赤信号領域です。資産効率 (資産の利用度) は乱高下しています。流動性 (短期資金繰り) は悪化トレンドで、赤信号領域に嵌ってしまいました。安全性 (長期資金繰り) は、青信号天井値から一気に底値に行きました。

㈱C & I H を時系列に鳥瞰すると、2006 年 2007 年は 2005 年までにした増資によって、流動性、安全性が高かった為、企業力は青信号領域にありましたが、2008 年から 3 年続いた営業損失垂れ流しによって、資金は流出し、2010 年には債務超過に転落したと読めます。

右上の借入金の推移を見ると、2006 年ゼロ、2009 年急増し、50 億円を超えました。日本振興銀行が貸し付けたと思われませんが、46.96 ポイントの企業であることが分って融資したのでしょうか。



単位:千円	2006	2007	2008	2009	2010
短期借入金	0	20,340	251,400	2,469,500	792,350
1年以内に返済予定の長期借入	0	0	48,433	243,662	352,243
長期借入金	0	71,061	67,433	2,299,318	3,395,047
借入金合計	0	91,401	367,266	5,012,480	4,539,640

ところで、皆さんは自社の決算書をよくご覧になりますか。その時、何を注意してみますか。今回のこの NEWS を作るにあたって、他の NEWS ではありえない驚きを持って作成しました。問題は、勘定科目とその金額です。

単位:千円	2006	2007	2008	2009	2010
流動資産					
受取手形・売掛金	2,276,338	2,754,680	1,309,196	291,479	168,687
営業投資有価証券	1,217,136	717,518	609,836	32,956	0
営業投資損失引当金	△ 596,817	△ 490,359	△ 518,373	0	0
営業貸付金	287,785	188,145	112,205	1,066,911	112,516
短期貸付金	26,166	812,651	530,966	72,273	0
貸倒引当金	△ 284,948	△ 295,657	△ 1,266,769	△ 354,660	△ 163,858
固定資産					
投資その他の資産合計	5,925,707	5,005,405	4,647,180	6,652,964	4,070,743
貸倒引当金	△ 1,795,433	△ 1,543,459	△ 2,007,174	△ 2,397,138	△ 2,744,031
投資その他の資産貸倒引当金控除後合計	4,130,274	3,461,946	2,640,006	4,255,826	1,326,712

貸借対照表 (財産の状況を示す計算書類) を一部抜粋しました。青の塗りつぶしは、貸倒引当金と、その引当対象となった債権です。2008 年 1,952,367 千円の債権の 64.88% が貸倒の危険があると見做され、1,266,769 千円の貸倒引当金が計上されています。肌色の塗りつぶしは、営業先への投資有価証券です。2008 年 609,836 千円の投資の 85.00% が損する可能性があること見做され、518,373 千円の営業投資損失引当金が計上されています。緑の塗りつぶしは、投資その他の資産合計と、その貸倒引当金です。2010 年、4,070,743 千円の投資その他の資産の 67.41% に貸倒れる可能性があること見做され、2,744,031 千円の貸倒引当金が計上されています。

とどのつまり、売っても、回収を考えないで売り、投資しても、リスクを考えないで投資し、貸しても、相手の信用状態を調べないで、貸す、管理が手薄な会社であるということです。

最後に、営業効率の各指標を載せておきます。2006 年、売上高経常利益率は 1.88% で、営業効率は赤信号です。

2008 年から 3 年連続の営業損失。あり得ないほど悪く、あってはいけません。

単位:千円	2006	2007	2008	2009	2010
売上高合計	10,687,593	19,672,020	13,301,688	4,041,515	2,826,713
売上総利益	7,223,034	12,542,027	7,178,042	2,819,951	2,264,159
売上高総利益率	67.58	63.76	53.96	69.77	80.10
営業利益	364,910	10,724	△ 6,241,183	△ 1,258,429	△ 285,598
売上高営業利益率	3.41	0.05	△ 46.92	△ 31.14	△ 10.10
経常利益	200,542	338,739	△ 7,197,691	△ 1,814,955	△ 1,922,158
売上高経常利益率	1.88	1.72	△ 54.11	△ 44.91	△ 68.00
当期利益	167,185	△ 87,691	△ 8,917,624	△ 2,998,860	△ 3,643,994
売上高当期利益率	1.56	△ 0.45	△ 67.04	△ 74.20	△ 128.91

まとめ ㈱C & I H と同様の事例は、中小企業では頻発しています。しかも、税法基準のみで必要な引き当てをしていないので、もっと厄介。貴方の会計・分析は、大丈夫ですか。また、㈱C & I H に貸した日本振興銀行も同じことが言えるのではないのでしょうか。

編集後記 SPLENDID21 に関するお問合せは下記までお願いいたします。
〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6 番 5 号 税理士法人 諸井会計
tel 0952-23-5106 fax 0952-22-2888 ① info@moroi.co.jp URL <http://www.moroi.co.jp/>